

- ◎家畜伝染病の防疫対策にしっかりと取り組もう。
◎公共牧場の有効活用と自給飼料の安定確保を進めよう。

<要約>

◇ 乳用牛 ～夏季の飼育管理～

牛舎で送風機を利用する場合は、牛体に風が直接当たるように設置する。飲水設備は常に清潔にし、十分な水量を確保する。暑熱による採食量の低下を防ぐため、夜間の給与量を増やす。暑熱により人工授精での受胎率が低下する場合は、対策を見直し、受精卵移植の活用も検討する。

◇ 肉用牛 ～夏季の飼育管理～

暑熱による採食量の低下を防ぐため、飼料の給与回数や夜間の給与量を増やす。飼料や水が変敗しないように、飼槽や水槽は常に清潔にする。また、牛舎内の資材は片付けるなどして、通風を妨げないようにする。

◇ 豚 ～夏季の飼育管理～

窓の開放や送風機などにより、豚舎内の換気と温度管理に注意する。ただし、子豚には送風機などの風が直接当たらないようにする。種雄豚との交配はできるだけ涼しい時間帯に行う。

◇ 鶏 ～夏季の飼育管理～

鶏舎の風通しを良くするとともに、舎内への水の細霧や日よけの設置などを行う。また、採食量の低下を防ぐために、夜間に点灯して給餌を行うことも効果的である。

◇ 草地・飼料作物 ～2番草の収穫及び草地更新～

2番草の刈遅れは、収量及び品質の低下につながるため、刈取適期を逃さないよう注意する。また、計画的に草地更新を行い、生産力の回復に努めるほか、更新前には土壤診断を行い、その結果に基づいた土壤改良を行う。

◇ 環境保全 ～畜舎汚水の対策～

畜舎汚水量を増やさないう、飲水設備及び畜舎から貯留槽、汚水処理施設に至る経路の点検・補修を行う。尿汚水の貯留槽にはふたをして臭気が発散しないようにする。

◇ 農業保険

家畜共済など、自分の経営にあった保険に加入して、リスクに備える。

報道機関用提出資料	
担当課 担当者	畜産課 経営支援グループ GM 山田 健司
電話番号	直通 017-734-9496 内線 4814
報道監	農林水産部 次長 石澤 雅史 内線 4966